

# ひと・いのち輝く 鎌ヶ谷市政へ



4期16年、みなさまには大変お世話になりました。この度、私の後任として松原よし子さんを推薦します。松原さんは、福祉・医療・介護の専門家で、命と暮らし最優先の市政実現に尽くせる人です。私も地域で、松原さんと二人三脚でがんばります。市議会議員 宮城とみ子

私は、ライブ活動で鎌ヶ谷市の元職員と知り合い、2年前に転居してきました。これまで皆さんからいただいた貴重な経験を、この鎌ヶ谷市政に活かせればと思っています。共産党がお願いした市民アンケートに「年金が少ないのに、税金や保険料がアップ、生活できない」「収入は増えないのに子どもは学齢とともにお金がかかる。この先不安」…深刻な声が寄せられています。市民に真つすぐ向き合い、ひと・いのちが大切にされる鎌ヶ谷市をこいつしよにつくっていきましょう。

党・市・医療介護相談室長

# 松原よし子



## 松原よし子 がめざす こんな市政・市議会へ

戦争になれば障害者は生きていけない！ベトナムのボランティアで痛感しました。私は憲法9条を命がけで守ります。

### 国の悪政にNoといえる市議会に

- 消費増税をストップし、暮らしと営業を守ります。
- 9条改憲NO！原発に頼らない社会の実現を。
- 軍事費を削減し、抜本的な災害対策の強化優先を。

### 命と暮らしが大切にされる市政に

- 介護保険料・利用料の軽減、特養ホームの増設をすすめ、介護福祉労働者の処遇改善を図ります。
- 国保料の引き下げと、保険証の取り上げをやめること。
- 買い物・受診などの移動手段の確保をはかります。

国の指針が改正され、胃カメラ検診が導入されました。浦安市は50歳以上が対象ですが、鎌ヶ谷市はナント「80歳以上」。おかしくありませんか。

私は女手一つで必死で育てた3人の子どもも社会人に。養育費をもらっていましたが本当に大変でした。子育てを応援します。

### 子育て応援、教育の充実をすすめる市政に

- 高校卒業までの医療費を無料化します。
- 給食費の無料化をめざします。
- 返済不要の給付型奨学金制度を鎌ヶ谷でも創設します。
- 通学路の安全対策をすすめます。



船橋二和病院医療福祉相談室  
課長（ソーシャルワーカー）  
松本 若菜さん

松原さんは、人権を守る熱い胸と、母として職業人としてのたくましい腕（かいな）を持った、医療・福祉・介護相談の専門家です。困った人がいるとすぐに飛んで行く行動力の人です。今度は、鎌ヶ谷市議会でその力を発揮してもらいたい！応援しています。



滋賀大学名誉教授・博士（教育学）  
元「ベトちゃんドクちゃんの発達を願う会」会長 藤本文郎さん

松原さんは、全国障害者問題研究会の活動として滋賀大学に通っていた頃から、成長を見守ってきました。最近では何度かベトナムに同行し、障害者・高齢者福祉の調査活動も行いました。また、「ひきこもる人と歩む」の編集なども行いました。障害者・高齢者福祉の専門家に育ってくれたと確信します。応援しています。



かがや健康友の会会長  
山本 利夫さん

かがや健康友の会は、誰もが安心して住み続けられる街づくり運動を勧めています。松原さんは、ケアマネとして、多くのお年寄りの生活をささえる仕事をしてきました。その経験をぜひ、今度は鎌ヶ谷市民のために活かしていただきたく応援させていただきます。



元市議会議員（鎌ヶ谷2丁目在住）  
駒崎 年子さん

鎌ヶ谷市議会の中のかげがえのない日本共産党の議席を松原よし子さんに託します。福祉の現場は、国の冷酷な政治で、福祉の対象者も、事業所も従業員も大変です。松原さんの福祉・介護の経験をぜひ市民のために活かしてください。本当に期待しています。



# だれもが大切にされる政治をつくりたい

## 活動ピックアップ

### 特養ホームで歌声ボランティア



ここ数年、夫と2人で、うたごえボランティア活動が続いています。地域の特別養護老人ホームでは昭和歌謡が喜ばれ「こんな明るい表情の利用者様を見たことがない」と職員さんが話してくださることに励まされています。



共著で出版  
社会保障推進鎌ヶ谷協議会の総会で、福祉・介護の現状を報告する松原さん

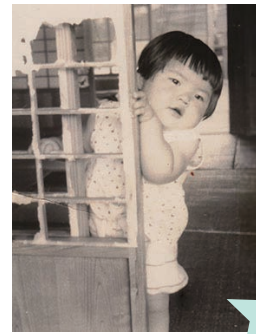


社会保障推進千葉県協  
議会が千葉県と行った懇  
談会。介護保険がどれほ  
ど使いにいくかなど利用  
している方の声を代弁し  
て訴えました。

社会保障推進千葉県協会は毎年県内の自治体と懇談し実態を伺っています。鎌ヶ谷市との懇談でも、国が「自助・互助・共助」を強調しつつ、その責任を市町村や住民に押しつけてきています。自治体から国にはものがなかなか言えません。議会が役割を果たすことが必要だと痛感しました。



02年メーデーに参加した職場の仲間と(右から3人目)



2歳で立ちました  
中学の修学旅行(右)

## わたしの原点 「人は見た目じゃない」

1958年、静岡県生まれ。超未熟児で誕生し、脳性まひによる足の障害で、2歳まで歩けませんでした。小学校のクラス対抗リレーでは「お前がいるからビリだよな」などといじめられ、もっぱら本を読んだり習字をしていました。絵を描くのが好きでよく賞をもらい、足は悪いが他のことで頑張ればできるんだ、と自分を元気づけていました。

中学2年の時、病院の院内学級で一緒だった小学5年の女の子。手足の自由が利かず「スカートをはかせて」と言われ手伝いましたがはけません。女の子は「私みたいな子はかわいい格好なんかしても仕方ないわよね」と泣かれました。『見た目じゃないよ』と励まそうと思いましたが、何も言えず悔やまれました。大変な衝撃で、人生を決めるきっかけになりました。



## わたしの転機 人生を変えた大学の4年間

静岡県立下田北高校を卒業し、『私の原点』を胸に社会福祉を学びたいと京都の花園大学に入学。

市内の大学が集まったボランティアサークルや全国障害者問題研究会に入会。在宅重度障害者のボランティアでは、「空は四角いものと思っていた(病室からしか見えない)」との言葉に衝撃を受けました。先輩に「社会福祉を真にめ

ざす者は、専門家になれ、組織者になれ、そして政治家になれ」と教えられ、それが今でも私の信条です。

蛭川革新府政が倒され、『憲法をくらしに生かそう』の垂れ幕が庁舎から降ろされるのを仲間と見に行き、みんなで悔し涙を流しました。福祉と政治は一体です。大学2年の時に、躊躇せず日本共産党に入党しました。



ここまで大きくなり、歩けるとは思ってもいなかった母が、大学の卒業式に晴れ着を送ってくれました。

## わたしの挑戦 政治を変える仕事へ

最初の勤務先は京都の西陣病院。めざしていたソーシャルワーカー(社会福祉士)の仕事に従事できました。相談者の方々が、『病い』などをきっかけに崩れかけた生活を再建するために地域や施設内などで生きていけるよう、お手伝いする仕事です。「黒子」のような仕事ですが、とても遣り甲斐があります。また、介護保険を活用する上でのケアプラン作成にも関わりました。

脳梗塞で大きな障害が残った66歳の男性。年金が小額のため生活保護を受け施設に入所でき「ここなら大丈夫」とリハビリに励んでいます。

医療や介護は制度が次々に改悪され、行政や現場も大変です。報酬が低く有給休暇もとれず多くの介護職員が辞めています。今度は市政の側から改善できるよう全力をあげます。



船橋二和病院の盆踊り会場で署名のお願い地域の人とハイキング(右)



「自治体は市民生活を守るためのツール(手だて)の宝庫です。国の悪政から住民の生活を守るために、これらのツールを使いこなす cool head(冷静な頭)と、市民に寄り添う warm heart(暖かい心)をもった松原よし子さんは市議会に最適の人であることを信じて疑いません。」 花園大学教授 吉永 純さん

●1958年 静岡県生まれ。●81年 花園大学文学部社会福祉学科卒。82年 滋賀大学特殊教育専攻科研究生終了。2018年 日本社会事業大学精神保健福祉士短期養成課程修了。●資格: 中学校社会科教諭、養護学校教諭、社会福祉士、介護支援専門員(ケアマネージャー)、精神保健福祉士。●職歴: 船橋二和病院他でケアプラン作成、就労支援など歴任。●現在、生活支援員。●著書(共著): 『ひきこもる人と歩む』(新日本出版)『何度でもやり直せる』『高齢者介護のコツ』(クリエイツかもがわ)など。